

平成 22 年 度 学 校 評 価 表

宮崎県立妻高等学校

重点目標	評価項目	目標	具体的方策	自己評価 A : 大変満足 B : 概ね満足 C : 少し不満 D : 大変不満	成果及び改善策	学校関係者 評価	評価・具体的意見
学力向上	宅習量の増加	宅習量平均を前年度より増やす。	①宅習実態調査を行い、定点観測を行う。 ②学習会他の機会を使って、自学自習力を身につけさせる。	B	前年度の調査と比較すると、2年・3年は増加しており、更に本校の目標とする一日の宅習時間(1年150分、2年150分、3年180分)に到達している。1年生は日常の取り組みは大変良好であるので、自宅での学習習慣定着の指導を更に進めたい。	B	自己評価通りである。
	教職員の授業力向上	①研究授業を1年に1回各教科において実施する。 ②大学入試問題研究の成果を各学年で授業で生かす。	①学校公開週間において、各教科で研究授業を実施し、教職員及び保護者にも参観をお願いする。 ②東京大学前期試験問題を各教科で研究し、研究報告書を作成、研修会を実施する。	B	各教科で授業研究・公開を実施した。教科指導力向上支援教員の授業公開も実施し、授業研修に役立った。今後は各教科での検討を更に深め、教科指導の共通理解を図れるよう工夫したい。 東大前期試験問題分析とその報告書作成、および報告会が実施できた。特に、解答時に要求される力を分析し、授業でどう活用するかを研修できた。	A	様々な取り組みにより、授業力向上に取り組んでいる。
	生徒の学習意欲の喚起	①生徒の活動の場を前年度より増やす。 ②授業アンケートの意欲に係る応答の平均値を向上させる。	①生徒の表現の場を出来るだけ作り、可能な限り原稿を読まずに発表させる。 ②授業アンケートの中で、意欲に係る質問を行い、その結果を分析する。	B	オープンスクールの運営や表彰式で生徒が自己表現できる活躍の場を作ることができた。特にオープンスクールではボランティアの生徒が増加し、本校の良さを中学生に伝えたいと、生徒が意欲的に活動した。また、授業アンケートの中で、課題への取り組み・授業態度がよいと思っている生徒は全学年で8割を越えている。学年での取り組みもあり、学習に関しての取り組みは年々良くなってきている。	A	自己評価通りであるが、生徒の意欲的な取り組みを評価したい。
	読書指導	図書館の貸出冊数を前年度よりも増やす。	図書館来館者を増やすため、 ①図書館終礼 ②図書館コンサート ③ポップ作成等を行う。	B	バーコードによる貸出業務が順調に推移していることや、具体的方策の取組みのほか、図書委員が積極的に活動してくれたことにより、昨年度に比べ(12月段階)一人当たりの貸出冊数が、3.3冊からほぼ倍増した。	B	自己評価通りである。

平成 22 年 度 学 校 評 価 表

宮崎県立妻高等学校

重点目標	評価項目	目標	具体的方策	自己評価 A : 大変満足 B : 概ね満足 C : 少し不満 D : 大変不満	成果及び改善策	学校関係者 評価	評価・具体的意見
進路指導の 充実	国公立大学進学指導の 充実	国公立大学合格率60%以上を目指す。	①授業・課外・個人指導や学習会を通して、学力を高める。 ②進路講演会を通じて生徒・保護者の進路意識を高め、学習量を増やす。	B	年間で8回の進路に関する講演会を実施し、うち、保護者も対象にした会が2回実施できている。推薦合格率は、46.2%(12/26)と昨年より6ポイントも上回った。 生徒の進路希望と出願校とのミスマッチを少なくし、合格率を高めていきたい。九大などの難関大の受験を考える生徒が出るなど進学指導の充実は図れた。	B	センター試験等の受験機会をさらに増やすような指導をして欲しい。
	私大・短大・専門学校 進学指導の充実	私立・短大・専門学校の合格率95%以上を目指す。	①授業・課外・個人指導や学習会を通して、学力を高める。 ②進路講演会を通じて生徒・保護者の進路意識を高め、学習量を増やす。	B	私立大学合格率85.7%(18/21)、短大合格率100%(4/4)、専門学校合格率86.6%(58/67)、合計では87%であった。 看護系専門学校希望生徒の内定率100%は評価できる。3年生になってからの指導だけでなく、1・2年次から入試に必要な力(基本的な学力や生活態度)をつける指導の充実を図りたい。	B	自己評価通りである。
	福祉科における介護福祉士国家試験への取り組み	合格率のさらなる向上を目指す。	①授業や個人指導を通して生徒の学力を高める ②模擬試験の分析や事前事後指導を通して効果的な指導を行い、生徒の学力向上に努める。	B	国家試験合格率87%を達成することができた。13科目を授業とリンクさせて分担し、対策を練った。特に法律や制度に関する分野は生徒の苦手意識も高くなかなか点数が伸び悩む時期があった。しかし、生徒達は最後まで粘り強く取り組み、力をつけることができた。	A	生徒の発表どおり、大変頑張っている様子が見られた。
	就職指導の充実	就職内定率95%以上を目指す。	①面接・小論文指導を通じて、生徒のコミュニケーション力や学力を高める。 ②就職希望生徒によるインターンシップを実施する。	B	2月末時点の就職内定率は95.8%である。合格率は62.5%と昨年よりは上回ったが、厳しい内容であった。今後も面接や筆記試験等が重要視される。指導体制を強化していきたい。 普通科2年生を対象にインターンシップが実施できた。受入れ先企業と本校進路指導との連携を深め、インターンシップの更なる充実を図りたい。	A	就職内定率が高い点が評価できる。

平成 22 年 度 学 校 評 価 表

宮崎県立妻高等学校

重点目標	評価項目	目標	具体的方策	自己評価 大変満足 A : 満足 B : 概ね満足 C : 少し不満 D : 大変不満	成果及び改善策	学校関係者 評価	評価・具体的意見
基本的生生活 習慣の確立	遅刻・欠席の減少	遅刻数・欠席数を昨年度より減らす。	①課外及び授業の内容充実を図り、生徒の学習意欲を喚起する。 ②時期に応じた課外登校指導や、保護者とともに挨拶運動を行い、生徒の登校意識を向上させる。	B	進路希望に応じた課外時間割を計画できた。朝7時25分着席して余裕を持って課外に取り組むことを目標とした登校指導を行い、登校意識を向上させることができた。 保護者によるあいさつ運動も計画通り実施できた。	B	自己評価通りである。
	健康指導	自分で健康管理のできる生徒を育成する。	①健康講座や保健の授業を通して、生徒の健康に対する意識を高める。 ②応急処置等の講演・講習会の実施など、健康に対する意識を高める諸活動の充実を図る。	B	・健康講座は、1学期に「おしやれ障害(1年生)」を、2学期に「ピアカウンセリング(2年生)」を実施した。両講座とも高校生の発達段階に応じた内容であり、生徒の健康に対する意識を高めることができたと考える。 ・毎日の健康観察を実施し、年間を通して生徒の健康状態のチェックを行うことで疾病の罹患傾向などが把握できた。 ・口蹄疫の影響からCPR、AED研修は中止となった。23年度は職員対象で実施予定である。	B	様々な疾病があるので、健康指導のさらなる充実を図って欲しい。
	学校環境の整備指導	生徒の日常の清掃活動を充実させるとともに、環境整備への意識向上を図る。	①各クラスのLHRでの校内美化活動を実施する。 ②美化ボランティアを年3回実施する。	C	①については年度当初に、LHR担当者と連携を図り各クラスでの美化活動をお願いしたところであるが、新たに行事が入ることも難しく実施できなかった。②については、毎回100名近い生徒が自主的に参加をしてくれ、校内及び校外の清掃活動を行うことができた。保護者にも参加していただき、また生徒による運営に移行しつつある点が、本年度の成果である。	C	自己評価通りである。
	生徒指導の充実	主体的に考え、理性的に判断できる生徒を育成する。	①積極的生徒指導を展開し一人一人の生徒に向き合った指導をさらに進めるとともに、基本的接遇・マナー指導を行う。 ②あらゆる場面(生徒会活動・行事・HR活動)を捉えて、生徒に様々な問題を考えさせ、発表に繋げる指導を行う。	C	ひいらぎ祭、球技大会等の年中行事に加え、全国高総文祭「弁論の部」の運営、地域興しのイベントへの参加等を通し、生徒の主体性や自己肯定感を育むことができた。 指摘されればできるが、自ら積極的に「あいさつ」したり、明確な返事ができる生徒が少なかった。現在、学校上げての指導や呼びかけで改善されつつある。容儀・マナー指導の徹底期間には、一定の成果があったが、常時との差があり今後の課題である。目が届かないメール・掲示板への指導が大きな課題である。	C	自己評価通りである。

平成 22 年 度 学 校 評 価 表

宮崎県立妻高等学校

重点目標	評価項目	目標	具体的方策	自己評価 A : 大変満足 B : 概ね満足 C : 少し不満 D : 大変不満	成果及び改善策	学校関係者 評価	評価・具体的意見
地域との 連携、 学校 ピアーアル	小中高連携の充実	周辺中学校との連携事業を毎月行う。	①妻中学校との連携授業を週1回行う。 ②周辺中学校教職員との会合を年3回行う。	B	本年度も、英語・数学において妻中学校での授業を実施した。また、小中高連携の交流会も実施され、本校福祉科1年生が全員参加し、交流を深めた。6月に実施した中学校の先生方を招いての教科交流会(国語・数学・英語)は、今年度も多くの先生方に来校いただき、授業参観・協議会を実施した。高校の状況を知っていただくとともに、中学校の現状も知ることができ、大変意義深い会であった。今後も連携を深めていきたい。	A	連携授業等、中学校との連携への取り組みがよく行われている。
	学校ホームページの充実	ホームページの更新を週3回行う。	①ホームページ作成業者との連携を密にする。 ②本校で作成できる部分は本校で行う。 ③クラス発表のページを作成し、生徒の表現力を高める。	B	今年度も、ホームページをほぼ毎日更新し、情報発信することができた。特に修学旅行や新入生宿泊オリエンテーションについて、細かい情報発信を行った。 クラスの発信については、ホームページと「妻高だより」で行った。来年度はホームページとの連携をさらに深め、より細やかな発信を行っていきたい。	A	ホームページの更新がよく行われており、学校の状況がよくわかる。
	学校広報の充実	①今年度の入試における本校への志願者増に努める。 ②オープンスクールの参加者数を昨年度より増やす。	①「妻高だより」を毎月各地区及び各中学校へ配布する。 ②オープンスクールの内容を充実を図るとともに、あらゆる機会を捉えて本校生徒と中学生や外部の方との交流を図る。	A	今年度も、ほぼ毎月「妻高だより」を発行し、西都市内の各地区および周辺各中学校へ届けることができた。 オープンスクールは、昨年度の316名より減少し269名の参加であった。口蹄疫の影響で7月実施を9月に変更したことが影響したのかもしれない。しかし、事後のアンケートを読むと、在校生の活躍もあり、多くの中学生が本校に対し良い印象を持ち、本校を受検したいという感想を残してくれた。	A	「妻高だより」の内容が充実しており、学校のアピールに繋がっている。

平成 22 年 度 学 校 評 価 表

宮崎県立妻高等学校

重点目標	評価項目	目標	具体的方策	自己評価 A：大変満足 B：概ね満足 C：少し不満 D：大変不満	成果及び改善策	学校関係者 評価	評価・具体的意見
部活動の 振興	部活動の内容充実	①部活動加入率を昨年度より上げる。 ②校内表彰時に、生徒による取り組み報告を行う。	①部活動加入生徒の調査及び活動内容についての調査を定期的に行う。 ②部活動結果表彰式時に、顕著な取り組みについての各部の代表による報告を行う。 ③部活動生集会を学期1回実施する。	B	①1年87.3% 2年75.3%の部活動加入率。(1・2年平均81.4%)途中で退部した生徒の再入部促進が課題である。 ②表彰時に自身の取り組みや抱負を語ることが、定着してきて、話す内容にも深まりがでてきた。 ③計3回実施できた。(更に1回実施予定)先輩が成功体験を語ることで、後輩たちにとっても部活動の意義を再確認できるよい機会となった。	B	自己評価通りである。
	部活動の環境整備	部活動顧問及び生徒のアンケートでの満足度を上げる。	①部活動顧問及び生徒に部活動における要望等のアンケートをとり、必要な措置をとる。 ②部顧問会等において情報収集を行い、必要な措置を迅速に行う。	B	アンケートをとり、活動の内容や活動上の問題点を集約することができた。一方で、専門的な指導者の不在については課題が残った。派遣にかかわる会議を必要に応じて不定期に開催。勉強との両立に苦しむ生徒に対し、部顧問・教科担当と連携して支援した。	B	自己評価通りである。
	外部指導者との連携	外部指導者との連絡を密にし、より充実した部活動が行われるように努力する。	外部指導者との協議会を年2回開催する。	C	5月の会議は、口蹄疫の問題で開催せず。1回のみ開催。地域スポーツとの連携強化がますます重要になっている。学校側職員が各部活動のまとめ役として、どう責務を果たすか、どのように協力体制をつくっていくかが課題である。	C	自己評価通りである。